

# 平成26年度 向山小学校区 第2回きずなづくりトークまとめ ～仮称：地域コミュニティ連絡会～

11月5日(水)に開催された「向山小学校区第2回きずなづくりトーク～仮称：地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。  
(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



ご参加ありがとうございました。

## 【当日参加団体一覧】

| 団体名        |           |                |
|------------|-----------|----------------|
| 夏梅木町内会     | 東大場町内会    | 向山小学校          |
| 中自治会       | 谷田城の内自治会  | 向山小学校 PTA      |
| 錦が丘自治会     | 環境美化推進員会  | 中郷中学校          |
| 中島町内会      | 保健委員会     | 錦田中学校          |
| 多呂自治会      | 民生委員・児童委員 | 中郷中学校 PTA      |
| 北沢町内会      | 組合立若葉保育園  | 錦田中学校 PTA      |
| 三島パサディナ自治会 | 大場幼稚園     | 中郷地区地域包括支援センター |

※当日参加者 24 名

会場アンケート：「テーマ別会議」「協議会設立」について、  
参加者の意向を伺いました。



## 【会場アンケート結果】

| テーマ別会議                     |    |
|----------------------------|----|
| ①子ども達の地域での活躍の場を考えよう！       | 8人 |
| ②大人も子どももあいさつを交わし合う地域にするには？ | 6人 |
| ③地域行事に新たな参加者を増やす方法を考えよう！   | 8人 |
| ④その他                       | 1人 |

※テーマ①と③の2グループに分かれ話し合いました。(別紙「テーマ別会議まとめ」参照)

| 協議会設立の意向        |     |
|-----------------|-----|
| ①議会に向けた取組みを進めたい | 6人  |
| ②連絡会を継続したい      | 17人 |
| ③その他            | 1人  |

### — 団体より校区の皆さんに情報提供・協力をお願い —

- 中島町内会：夏祭り子供の野菜販売、中島子ども寺子屋を実施。クリスマス会餅つき大会を予定。
- 三島パサディナ自治会：健康体操など地域の同好会が協力して「サロン談話室」を開設。反響は上々。
- 向山小学校：登下校時の子どもへの声かけ・見守りに感謝しています。今後もよろしく願います。
- 民生委員：子どもの自転車の交通ルールが悪く、交通事故が心配。しっかり指導をしてほしい。
- 環境美化推進委員：パサディナの河川公園に自然発生したホタルを大事に保護している。採取厳禁。
- 夏梅木自主防災会：「自助」の徹底(年6回啓発広報誌発行)。消防団と自主防の一層の協力関係の構築。

## テーマ①「子ども達の地域での活躍の場を考えよう！」

(テーマ①班:参加人数 13人)

●地域内での子ども達の活躍の場について、皆さんのアイデアや意見を出し合いました。

地域の中で「子ども達が活躍できる場」ってどんなことがある？

### ★夏祭り・納涼祭



#### 出店

○子ども会が企画し、子どもが駄菓子等販売の店番をする。親が1人付き添う。(錦が丘自治会)  
⇒中学生や高校生に入ってもらい、親の代わりにサポートしてもらってはどうか。

#### お祭りの企画

○地区の祭典行事の企画、運営、出店などへ、中学生の協力を得る。  
○お祭りの内容を企画運営する。  
⇒企画段階から、中学生や高校生も話し合いに加わってはどうか？

幼稚園では中学生や高校生と交流がある。学生自身が交流の内容を事前に考えて、しっかりと実践してくれる。

#### その他

○しゃぎり⇒子どもが伝統を守る。  
○小・中学生もカラオケにも参加してほしい。  
○子どもに納涼祭に大勢参加してもらいたい。  
○各自に担当できる場所をつくり参加させる。

### ★地区の運動会

### ★廃品回収の手伝い



○中学生の参加が多い。今後も続けてほしい。  
・回収方法は各地域(町内会)でやり方が様々。

### ★地区の防災訓練



#### 運営

○防災訓練を中学生が運営する。

#### 具体的な仕事を与える

○汚水マスの開放。(長時間停電の時は、下水機能が使えないので、操作の確認と地域住人の理解が必要)  
○トランシーバー無線の勉強。  
○炊き出し訓練。  
⇒実際に役に立つ事をやらないと、子どもは興味を持たない。  
⇒「必要な技術を学べられる」「役に立つこと覚えられる」というメリットを感じさせる。

大人が子どものやる気をおさえない!!  
積極的に教えながら、子どもと接してほしい。

### ★地域ボランティア (主に中学生)



#### 環境美化

○中学生などに地域の花壇・公園の整備活動に参加をしてもらう。大人と一緒に活動を。  
○地区の奉仕活動(清掃)と防災訓練を合わせた活動等への中学生の参加。

○ゴミ拾いに子どもの参加。(南高校が月一回ゴミ拾いを実施しているが、地域からの参加は少ない。)

錦田中学生と地元の「松並木と一里塚を守る会」が一緒に、年6回松並木清掃を実施。14~15年続いている。

⇒子どもは評価されたり、地域の為に役立っているとわかるとすごくはりきる。

⇒子どもにボランティアできる場や情報提供が必要。

⇒錦田中学校には、地区別の生徒会グループがある。町内の会長さんとうまく繋がりながら、地域行事で活躍できるアイデアを出させる。

⇒中学生は部活動があり時間的制限がある。  
PTA・学校・地域のすり合わせ(協力)が必要。

### 実効性のあるものへしていこう!!

★地域一斉は困難でも、まずは小さいグループから輪を広げていく! そのパイプをどうしていくかが課題。  
★連絡を取り合えるような関係づくり、話し合いの場の設定を進めていこう。



学校には地域の情報が入ってこないで、教えてほしい!

⇒情報があれば、学校も協力できる。

テーマ③「地域の行事に新たな参加者を増やす方法を考えよう！」

(テーマ③班：参加人数 11 名)

●新たな参加者とは誰か、出て来ない人達を地域行事に参加させるにはどんな工夫が考えられるか、話し合いました。

「地域の行事」とは？

- ・防災訓練
- ・側溝清掃
- ・校区祭・お祭り
- ・老人祝賀会など

「新たな参加者」とはどんな人たち？

若者・現役世代

- ・小・中・高校生
- ・20～50代の男女
- ・親子

障害を持った方

- ・あまり顔を知らない方
- ・町内会未加入者
- ・アパートの住人

お年寄り

- ・引きこもりがちなお年寄り
- ・1人暮らしのお年寄り
- ・高齢の町内会未加入者

- ・何も趣味がない人
- ・老後に他地域から移住してきた人
- ・地域とのつながりがないが、災害時に一番援助を必要とする人達

「災害時の為に」  
町内の知り合いを明確にしておく

交流がほとんどなく、  
回覧板を回すのがやっと

なぜ出て来ないのか？

★人間関係や地形の問題

- ・人間関係(嫌いな人がいる等)
- ・人付き合いを嫌がる
- ・坂道があり家から出ない

★活動は活発でも同じメンバー

- ・福寿会(東大場)では老人会活動は活発だが、いつも同じメンバーしか出て来ない

防災訓練の参加者を増やす工夫

■小学生は「楽しみながら親子で参加」

- ・北上小「イザカエルキャラバン」実施予定⇒親子でゲームを通し防災訓練ができる
- ・親子で参加できるプログラムの工夫

学校の力を借りるのも一つのアイデア

- ・一番頼りになるのは中・高・大学生
- ・来ない理由は①自意識が強い②部活
- ・中学生は参加したいと思っているが、部活と重なり参加できない

日頃出て来ない人が、参加しやすくなる「しかけ・雰囲気づくり」

■こちらから出かけよう！(きっかけづくり)

- ・西小では子ども達でグループを作り「かけこみ110番の家」へあいさつして回った
- ・出ない人を出すことはできない。こちらから出かけていくことが、一つのきっかけになる
- ・訪問し、声をかけることが楽しみながらできるような仕組みを作れば顔見知りになる
- ・全部一度にやらず、日にちを決め順番にやる(できるところからやる)

町内役員がそこまでやるだろうか？

■組単位、隣近所でつながりを作ろう！

- ・組単位の活動を重視⇒組単位で住民の情報を把握⇒組単位で災害時対応する(夏梅木)
- ・隣近所の声かけ運動

■魅力ある活動を考えよう！

- ・魅力ある内容であれば参加するかもしれない
- ・敬老祝い金を配布するのではなく、皆で集まってお祝いした⇒参加率 90%。今まで出て来なかった方も来た。継続できるとよいが次の自治会長がやるかどうかは不明

地域とつながりのない方と顔見知りになる仕組みや、地域活動に意欲のある方と協力できる体制を作ろう！

■中・高校生は「訓練日の統一」や「証明書発行」などの工夫が有効

- ・地域で防災訓練の日時をなるべく統一
- ・スポーツ団体に大会の日程調整をしてもらう(現実的には難しい)
- ・高校生は学校側から働きかけてもらう(参加証明書があると参加する)

★参加者は年々増加

- ・訓練に南高生 4 名参加
- ・夏祭り、敬老大会も増加

現役は忙しい。日程統一も難しい。現実には高齢者がやるしかないのでは？

■地域活動に意欲のある方を活用しよう！

- ・「地域安全サポーター(レインボー講座)」受講者
- ・講座が実践に結びつくとやる気 UP
- ・地域にいる人材を地域は全く知らない
- ⇒人材の情報が地域に流れるシステムづくり